

目的を表す表現の日韓対照研究
 —韓国語の「-러 leo」と日本語の「～に」を中心に—

朴 珍希*
 PARK, Jinny

目 次

1. はじめに	3. 2. 2. 敬語
2. 先行研究	3. 2. 3. テンス・アスペクト・ムード形式
3. 「-러leo」構文と「～に」構文の特徴	3. 2. 4. 取り立て助詞との共起
3. 1. 目的節と主節との関わり	3. 2. 5. 述語用法
3. 1. 1. 意志性述語	3. 2. 6. 移動の様態を表す動詞
3. 1. 2. 主体	3. 3. 主節の特徴
3. 1. 3. 場所	3. 3. 1. 移動動詞
3. 1. 4. 否定	3. 3. 2. 非移動動詞
3. 2. 目的節の特徴	3. 3. 3. ゼロ主節形式
3. 2. 1. 品詞的な面	4. おわりに

1. はじめに

主節が表す動作や事態のいわゆる「目的」の表現形式として、韓国語の場合は「-러leo¹」、「-러고lyeogo」、「-고자goja」、「-기 위하여gi wihayeo」、「-게ge」、「-도록dolog」などがあり²、日本語の場合は「～に」、「～ために」、「～ように」、「～のに」、「～には」などがある³。本稿では、「目的」を表す形式の中で、「目的」以外の用法は持たず、文法的な特徴がよく似ている韓国語の「-러leo」と日本語の「～に」に焦点を置き、両者の文法構造について考察する。「-러leo」と「～に」は、次の i) のように、主節に移動を表す動詞を持ち、目的節には動きを表す動詞を持つという点では類似性があるが、ii) のように、語彙的な特徴には違いが見られる。

- i) a. 신작 영화를 보러 극장에 갔다.
 (新作映画を見に映画館へ行った。)
- b. 新しいトリートメントを買いにスーパーへ行く。
- ii) a. “내가 이 절에 있으러 왔으니 넓고 깨끗한 방을 하나 치워라.” (20070920google)

* 岡山大学大学院社会文化科学研究科 博士後期課程

¹ 本稿のハングルローマ字表記は、2000年7月に韓国教育部と文化観光部によって改定されたハングルローマ字表記法に基づいたものである。(文化観光部、<http://www.mct.go.kr>)

² 「目的」を表す表現として、國立國語研究院(2002)では、「-러leo、-러lyeo、-려고lyeogo、-고자goja、-게ge、-도록dolog」を、國立國語院(2005)では、「-러leo、-려고lyeogo、-게ge、-도록dolog」を挙げている。

³ 「目的」を表す表現として、佐治(1984)では、「～に、～のに、～には、～ために、～ように」を、益岡(1999)では、「～ために(は)、～ように、～のに(は)、～べく、～に」などを、前田(2001)では、「ために、～ために、～ように、～に、～のに」を挙げている。

(「俺がこの寺へ居に来たので、広くてきれいな部屋を一つ用意しろ。」)

b. *太郎が我が家へ居に来た。

このような点について、対照言語学的な観点からその制約などの相違点を分析し、両者の構造上の特徴を明らかにすることを本稿の目的とする。用例は小説や新聞記事などから収集し、考察した⁴。

2. 先行研究

「目的」を表す表現の先行研究は多数存在する。韓国語の「-러leo」においては、洪在星(1987)、^{ハンソンフア}한송화(2007)などがあり、「『-러leo』は移動の目的を表し、先行節には一定の場所で具体的に成し遂げられる行為を表す動詞のみ用いられ、後行節には移動性を持った動詞が用いられる」(한송화2007)と記述されている。

iii) a. 철수는 영희를 만나러 다방에 나갔다. (洪在星1987)

(チョルスはヨンヒに会いに喫茶店へ出掛けた。)

b. 남편은 공사장에 막노동을 하였고, 부인은 파출부 일을 하러 다녔다. (한송화2007)

(夫は工事現場で肉体労働をし、妻は家政婦の仕事をしに通った。)

さらに、「-러leo」の目的節述語の制約には、「一状態性動詞」、「様態(modalite)表現の助動詞『할 수 있다(～することができる)』、하고 싶다(～がしたい)など』、移動の意味を表現する動詞『나가다(出掛ける)、달다(着く)』など」(洪在星1987)があるとしている。また、白峰子(2010)では、先行節には意味上、移動を表す「여행하다(旅行する)、출장가다(出張に行く)、도착하다(到着する)、출발하다(出発する)、꿈(을) 꾸다(夢(を)みる)」などは用いられないとしている。

「-러leo」の主節の「移動動詞」については、「No Q V°-러 N₁- (Loc+Acc) Vo」⁵のVoの位置に許容される動詞(約280語)を移動動詞と定義している(洪在星1987)⁶。結局、「Q V°-러」がこの文型の中心的な役割をするため、移動動詞というのは「Q V°-러」と結合できる動詞類を指すが、「移動」という概念と「Q V°-러」との相関関係が明確になっていない。また、한송화(2007)では、「移動性を含意した動詞」⁷と記述されている。

⁴ 出典が記載されていない用例は作例であることを示す。

⁵ この文型で、Noは主語名詞句、N₁は移動の補語役割をする第一名詞句、Qは連結語尾「-러leo」と結合する動詞の補語を表す。Locは場所を表す格助詞-에(に)、-에서eseo(から)、-로lo(へ)などを表し、Accは目的格助詞-를leul(を)を表す。(連結語尾：一つの文の述語や用言を連結型に作り、異なる文や用言とつなぐ語尾。(이희자・이종희2001))

⁶ 移動動詞は「Q V°-러」構文をとるが、一般的な移動動詞は「移動動詞+러」の形をとらない。ということで、移動動詞を「(いくつか例外はあるが)「-러」と共起できない動作動詞」と記述できるとしている。

⁷ 한송화(2007)での移動動詞：「가다(行く)、나가다(出掛ける)、나서다(出掛ける)、나오다(出る)、나타나다(現れる)、내려가다(下りてゆく)、넘어가다(越える)、다니다(通う)、돌아가다(帰る)、돌아다니다(歩き回る)、돌아오다(帰る)、들르다(寄る)、들어가다(入る)、들어오다(入る)、떠나다(発つ)、모이다(集まる)、방문하다(訪問する)、보내다(送る)、오다(来る)、움직이다(動く)、출발하다(出発する)、출항하다(出港する)、헤매다(迷う)…」

一方、日本語の「～に」については、目的を表す表現の一つとして取り上げられた、佐治(1984)、前田(2001)などがあり、「『に』は、移動動作とその目的を同時に表現する」(前田2001)と述べられている。

iv) a. ちょっとそこまでタバコを買いに行く。(佐治1984)

b. 映画を見に梅田へ行った。(前田2001)

また、前田(2001)では、目的節述語には「動詞(意志動詞・能動詞・自己制御性の動詞)」⁸が用いられるとしているが、奥田(1983)、泉原(2007)、日本語記述文法研究会(2008)では、v)のように、動作を表す名詞も使用可能であると述べられている。

v) a. 橋のたもとに、河原へ洗濯におりるもののかよう道がある。(動作性の抽象名詞(奥田1983))

b. 来週から試験だから、試験準備に、学校の帰り、図書館へ行こうよ。(動作を表す名詞(泉原2007))

c. みんなで工場の見学に行った。(動きを表す名詞(日本語記述文法研究会2008))

さらに、前田(2001)では、「～に」の目的節述語の動詞は、移動動詞以外の動作になる必要があり、次のような述語は制限されるとしている。

①「思う・感じる・知る・恐れる・憎む・慕う・落ち着く」などの感覚・感情を表す場合

②「ある・いる・存在する」のような存在を表す場合

③「捕まる・助かる・見つかる」などの受動的な動作の場合

日本語の「～に」の主節の「移動動詞」については、佐治(1984)では、「『行く』『来る』『回る』『赴く』など、主体の位置の移動を表す動詞」、前田(2001)では、「『行く・来る』を中心とした移動を表す動詞(でかける・伺う・戻る・帰国する・(飲みに)つきあう)」と述べられてはいるが、「～に+移動動詞」になる「移動動詞」とはどのような動詞を指すのか明確ではない。「～に+移動動詞」の関係に焦点を置いた「移動動詞」の研究は、管見の限りないようである。

しかし、前田(2001)では、目的節述語の特徴として「自己制御性の動詞」が挙げられているが、実際には、次のような自己制御性の動詞とは言い難いような述語もしばしば見られる。

vi) アメリカを愛した少年が、アメリカに殺されに来る。どうということなのか。(19931221朝日)

また、洪在星(1987)において移動動詞とされる「머물다(留まる)、멈추다(止まる)」など移動の中断や停止、または「남다(残る)」などの不動、到着段階に重点がある「다다르다(至る)」などは、「-러+移動動詞」の形式をとりにくい。

vii) *열쇠를 가지러 집에 다다랐다. (鍵をとりに家に至った。)

⁸ 前田(2001)では、例)「君だち、見舞いに来てくれたの?」の「見舞い」を動詞とみているようである。

以上のように、「-러leo」、「～に」の目的節述語には制約があり、また「-러leo」、「～に」と共起する「移動動詞」⁹⁾は限定的であるようである。

本稿では、以上の先行研究を踏まえ、目的を表す「-러leo」と「～に」の特徴について考察する。

3. 「-러leo」構文と「～に」構文の特徴

ここでは、目的を表す「-러leo」構文と「動詞の連用形+に」構文（以下、「～に」構文）はどのような構造を持っているのか、その特徴について考察する。そして両者の、〈1〉目的節と主節との関わり、〈2〉目的節の特徴、〈3〉主節の特徴、という三つの共通点・相違点を考察していく。まず、両者の目的節と主節との関わりについて考察する。

3. 1. 目的節と主節との関わり

「-러leo」構文と「～に」構文の目的節と主節の関わりの特徴は、「意志性述語」「主体」「場所」に、「否定」を加えた4点にまとめることができる。前者は「-러leo」構文と「～に」構文の共通点で、後者には相違点も含まれている。

3. 1. 1. 意志性述語

目的を表す「-러leo」と「～に」の目的節と主節は、意志性の述語である必要がある。1) の目的節と主節の述語、つまり、1a) の「만나다 (会う)」と「오다 (来る)」、1b) の「買う」と「行く」はそれぞれ「意志性+意志性」¹⁰⁾の関係にある。

1) a. 그녀는 남편을 만나러 왔었다. (世宗)¹¹⁾ (彼女は夫に会いに来ていた。)

b. 新しいトリートメントを買いに行く。(20120226朝日)

一方、韓国語の場合、2) のような文が成立する。それは、動詞性を持った形容詞「크다 (大きい)」が、動詞として使われる場合で、日本語とは異なる点である。

2) 영수는 키가 크리 농구교실에 다닌다. (ヨンスは背を伸ばしにバスケット教室に通っている。)

さらに、「-러leo」と「～に」にはその他の共通する機能がある。それは、「-러leo」と「～に」の目的節の出来事が動作主の意志的なコントロール範囲から少し離れる場合である。つまり、3) のように、「-러leo」の目的節述語に「-히- (受身形語尾)」、「당하다 (被害等を受ける)」、「받다 (被害等を受ける)」、「입다 (被害等を受ける)」などの受身表現がつく場合と、4) のように、「～に」の目的節述語に受身形式「(ら)れる」の受身表現がつく場合

⁹⁾ 「-러leo+移動動詞」と「～に+移動動詞」になりうる「移動動詞」については、3.3.1.で詳しく述べる。

¹⁰⁾ 本稿で扱う「-러leo」と「～に」以外の目的を表す表現（「-려고lyeogo」、「-고자goja」、「～ために」、「ように」など）については、「無意志性」も考えなければならないが、その点については今後の課題とする。

¹¹⁾ 文化観光部によって2007年に完成された韓国語コーパス「21世紀世宗計画」。(http://www.sejong.or.kr)

である。目的節述語が受身表現になると、目的節の動作は受動的になり、結果的には発話者が観察して見なした目的になる。意味的に、目的節述語は動作主が決して好んで行おうとする目的ではないため、動作主の意志性も目的性も弱い。3) と4) のような例は純粋な目的の意味から少し離れ、発話者による評価の世界に滑り込こうとしていると思われる。この点では、1) と大きく異なる。

- 3) a. 100번 거절당하러 다니는 과정에서 나는 우리들 인간이 얼마나 적응력이 높고 얼마나 회복이 빠른 존재인지 알게 되었다. (20090407朝鮮)

(100回も拒絶されに歩きまわる過程で、私は我々人間がいかに適応性がよく、いかに回復が速い存在なのかが分かるようになった。)

- b. 다금이 어머니는 “우리처럼 아이를 잃은 사람들에게 공판은 고문받으러 가는 자리” 라고 했다. (20130611朝鮮)

(タグムのお母さんに「私たちのように子供を失った人々に公判は、拷問を受けに行く場所」と言われた。)

- c. 난 능력을 팔러 왔지 사기를 당하러 온 게 아니란 말똥! (KCP)¹²

(私は能力を売りに来た。詐欺にあいに来たのではないんだよ。)

- 4) a. 金曜は午後から債権者に怒鳴られに行行って来る。毎回ここに行くと、メチャクチャ言われるので凹むんだ。 (少・Yahoo!ブログ)

- b. でもあのもう壮年の男が、入営数カ月でどれほど戦えたのか。物量、人員ともに上回る米軍相手に敢闘したという硫黄島戦だが、「叔父は殺されに行ったようなもの」と思う。
(20121026朝日)

c. 分別をわきまえた人間なら、レディメイド機以上に大変なデータ修復やパイロットランクにかかわる失点を覚悟してまで、倒されにやってくるわけがない。(少・ブレイクエッジ)
語彙の面では、「-러leo」の目的節には状態性述語は用いないが、5) のように、存在詞「있다(いる)」が「所有」や「存在」を表さず、「泊まる」や「過ごす」と同一の意味の場合、「-러leo」との共起は可能である。6) のように、「믿다(信じる)」も、「入信する」と同義の意味を持った場合、「-러leo」と共起可能である。

- 5) a. “내가 이 절에 있으러 왔으니 넓고 깨끗한 방을 하나 치워라.” (= ii a))

(「俺がこの寺へ居に来たので、広くてきれいな部屋を一つ用意しろ。」)

- b. *友だちが我が家へ居に来る。

- 6) a. 제 부친도 (부친) 교를 믿으러 대구에서 이곳에 와 정착했습니다. (週刊傾向&傾向.com)

(私の父親も(ブチョン) 教を信じに大邱からこちらへ来て定住しました。)

¹² 韓國科学技術院電算科によって1997年に完成された韓国語コーパス「KCP (KAIST Concordance Program)」。

b. *私はイエス様を信じに教会へ行きます。

語彙の面では、さらに7)、8)のように、感覚・感情を表す「느끼다 (感じる)」、「잊다 (忘れる)」などが「-러leo」と共起できる。一方、日本語の場合、存在や感覚・感情を表す動詞は「～に」と共起しない(前田2001)。

7) 따뜻한 사랑 느끼려 장흥에 가볼까? (長興アートパーク)

(温かい愛を感じに長興へ行ってみようか?)

8) 더위 잊으려 “얼음나라 놀러 오세요.” (氷の彫刻体験「アイスミュージアム」)

(暑さを忘れに「氷の国へ遊びに来てください。」)

以上、両言語に共通する「意志性述語」について分析した。「意志性」及び「評価性」という面では共通するが、語彙の面では差が見られる。次は「主体」について考察する。

3. 1. 2. 主体

目的を表す「-러leo」と「～に」の目的節と主節の主体は、従来指摘されているように、9)のように必ず一致する必要がある。さらに、9c)と9d)のように同一主体は省略される。

9) a. 나는 저녁을 먹으려 {나는/*너는/*민수는} 식당에 갔다.

(私は晩御飯を食べに{私は/*君は/*ミンスは}食堂に行った。)

b. 私は友達に会いに {私は/*あなたは/*次郎は}銀座へ行った。

c. 아내는 친구들과 저녁을 먹으려 나가더니 금방 들어왔다. (世宗)

(妻は友達と晩ご飯を食べに出掛けたと思ったらすぐ入って来た。)

d. 観客は、売店やタバコを吸いに出してしまった。 (少・Yahoo!ブログ)

「主体一致」は両言語において共通する。次は「場所」について考察する。

3. 1. 3. 場所

目的を表す「-러leo」と「～に」の主節の移動場所は、従来指摘されているように、目的節の行為が行われる場所と同一である必要がある。10a)と10b)の「移動したところ」と「行為が行われるところ」はそれぞれ「大学病院」、「グラウンド」で同一場所である。この点は、「-러leo」と「～に」の目的節述語は、主節の移動の場所を前提すると解釈できる。一方、10c)と10d)のように、移動の場所と行為の場所が異なる場合、非文になる。

10) a. 한 달 뒤 정기검진을 받으려 대학병원에 갔을 때입니다. (世宗)

(一ヶ月後、定期健診を受けに大学病院へ行った時のことです。)

b. 答 狭山丘駅の近くにあるグラウンドへ見に行ったのです。 (少・狭山裁判)

c. *학교의 컴퓨터 수업을 들으려 공원에 갔다.

(学校のパソコンの授業を受けに公園へ行った。)

d. *病院で白内障の手術を受けに銀行へ行った。

ここまで見たように、目的節と主節の「場所の同一性」は、両言語において共通する。

以上、3. 1. 1. ~3. 1. 3. の目的節と主節との関わりの特徴は、「-러leo」と「~に」両方に見られる共通点である。ただし、目的節述語の語彙の面では違いがみられる。次の3. 1. 4. では「否定」について考察する。

3. 1. 4. 否定

目的表現の否定を表す要素として、日本語の場合は、11) のように主節に付く「~ない」があるが、韓国語の場合は、12a) 、12b) のように目的節と主節に付く「안an」、そして12c) のように主節に付く「-지ji 않다anhda」という形態的に二種類がある。韓国語の二者は一般的に目的節と主節の述語全体を否定するという点では日本語とも一致する。

- | | |
|---|--|
| 11) 太郎は授業を受けに学校へ来 <u>なかった</u> 。 | [{学校へ来} なかった] |
| 12) a. 민수 <u>안</u> 보러 갔다.
(ミンスに会いに行か <u>なかった</u> 。) | [안 {보러 갔다}]
[{会いに行} かなかった] |
| b. 민수 보러 <u>안</u> 갔다.
(ミンスに会いに行か <u>なかった</u> 。) | [안 {보러 갔다}]
[{会いに行} かなかった] |
| c. 그리고 부모들은 결국 나를 찾으러 오 <u>지 않았다</u> . (世宗)
(そして両親は結局私を探しに来 <u>なかった</u> 。) | [{ 찾으러 오 } 지 않았다]
[{探しに来} なかった] |

一方、次の11) 'と12) 'のように、意味的に目的節述語のみ否定される場合がある。

- | | |
|--|---|
| 11) ' 太郎は授業を受けに学校へ来 <u>なかった</u> 。 | [学校へ {授業を受けに来} なかった。 {別の目的} に来た] |
| 12) ' a. 민수 <u>안</u> 보러 갔다.
(ミンスに <u>not</u> 会いに行った。) | [{민수 안 보} 러 갔다. {別の目的} 러 갔다]
[{ミンスにnot会い} に行った。 {別の目的} に行った] |
| b. 민수 보러 <u>안</u> 갔다.
(ミンスに <u>not</u> 会いに行った。) | [{민수 안 보} 러 갔다. {別の目的} 러 갔다]
[{ミンスにnot会い} に行った。 {別の目的} に行った] |
| c. 부모들은 나를 찾으러 오 <u>지 않았다</u> 。
(両親は私を <u>not</u> 探しに来た。) | [{나를 찾으러 오 } 지 않았다. {別の目的} 러 왔다]
[{私を探しに来} なかった。 {別の目的} に来た] |

つまり、11) 'は「太郎が学校に行ったのは、授業を受けではなく、別の目的(友達に会う・提出物を出す…) で」という意味で、12a) 'と12b) 'はそれぞれ「行ったのは、ミンスに会いではなく、別の目的で」、12c) 'は「両親が来たのは、私を探しではなく、別の目的で」という意味にもとれる。従って、11) と11) '、12) と12) 'では意味の二重性がある¹³⁾。

さらに、ここで注目したいのは、否定副詞「안an」が目的節に付く「-러leo」構文である。「안an」が目的節に付く「-러leo」構文は、次の13)と14)のように分かれ、この二者はまったく異なる機能を持っている。13)では否定範囲に二重性を持つ半面、14)では否定範囲は目的節にとどまる。また、13)では移動場所と行為の行われる場所が同一であるが、14)では移動場所と行為の場所は異なる。さらに、13)では、(目的節述語のみ否定される場合)「ミンスに会いに行っただけではなく、別の目的で行った」ということであるが、14)では「大統領は人に会わないことが目的で、(人を避けてわざわざ)別の場所へ行った」ということになる。

13) 민수 안 보러 왔다. (=12a) 、=12a) ’)

(ミンスに会いに行かなかった。)

14) “대통령이 사람을 안만나러 청남대에 가는 것이지, 사람 만나러 왜 가느냐”

(19951122朝鮮)

[{안 만나} 러 가다]

(「大統領は人にnot会いに(=会いたくないがために) 青南台へ行くのだ、人に会いに(青南台へ) 行かない」。) [{not会い (会いたくないがため) } に行く]

本稿では便宜上、目的節と主節全体が否定範囲に入る13)のようなものを「안an+러leoⅠ」、目的節のみ否定範囲に入る14)のようなものを「안an+러leoⅡ」と名付けておく。「안an+러leoⅡ」は、否定範囲は目的節にとどまる点、移動場所と行為の場所が異なる点、さらに、「～しないこと」という「非実現」が移動の目的である点で、特殊である¹⁴⁾。続けて、次の例を見てみよう。

15) 학교의 컴퓨터 수업을 안 받으러 일부러 공원에 가서 시간을 때웠다.

(学校でのパソコンの授業をnot受けに(=受けたくないがために) わざわざ公園へ行って時間をつぶした。)

15)では、移動の場所は「公園」で、行為の行われる(パソコンの授業を受ける)場所は「学校」である点で、「-러leo」の場所一致性に違反することになる。また、「公園へ行った目的はパソコンの授業を受けなかったためであった」という意味で、「パソコンの授業を受けないこと」が移動した目的になる。15)は、14)の「場所不一致」(移動場所:「青南台」、行為(人に会う)の場所:大統領の官邸の「青瓦台」)と、「未実現が移動の目的」(人に会わないために移動する)という点で共通する。これらは、14)では「人に会いたくない」、15)では「パソコンの授業は苦手」ということから、それぞれ「人」、「パソコンの授業」を「わざわざ避ける」という意味に解

¹³ 한송화 (2007) では、「안an」の否定範囲について、次のような例を挙げ、前者の否定範囲は目的節にとどまり、後者の否定範囲は目的節と主節に及ぶ、としている。

「너 안 보러 왔어. 일 때문에 왔지」(君にnot会いに来た。仕事のために来た。), 「그녀는 파출부 일을 안 하러 다닌다. 그냥 집안 일만 한다」(彼女は家政婦の仕事をしに通わない。ただ家事だけをする。)

¹⁴ 洪在星 (1987) では、次の例は非文であるが、{다방에 (喫茶店へ)} を除去すると、「안an」による否定が可能であるとし、さらに、文全体が「안an」の否定範囲に入ると説明している。しかしこれは、本稿の「안an+러leoⅠ」での条件である。

「철수는 영희를 안 만나러 {다방에} 나갔다」(チョルスはヨンヒに会わないがために{喫茶店へ} 出掛けた。)

釈することができる。

ここで、「안an+러leoⅡ」の「場所不一致」についてもう少し見てみる。次の16)と17)のように、「안an」の位置を目的節から主節に変えてみると、否定範囲は後続する主節述語にとどまる。そして移動場所と行為の場所も異なる。この二点は14)、15)とも共通する。つまり、「안an+러leoⅡ」の否定範囲は、「『안an』に直接後続する述語のみ」になる。

16) “대통령이 사람을 만나러 청남대에 안 가는 것이지, ~.”

(「大統領は人に会いに青南台へ行かないのだ、～。」)

17) 컴퓨터 수업을 받으러 일부러 공원에 안 갔다.

(パソコンの授業を受けにわざわざ公園へ行かなかった。)

従来の研究では、目的を表す「러leo」の条件として必ず場所の一致を挙げて来たが、場所一致性は、本稿の「안an+러leoⅠ」の条件であり、「안an+러leoⅡ」には当てはまらない。むしろ、「안an+러leoⅡ」では、必ず異なる二カ所の場所の確保が条件になる。従って、異なる場所の存在が条件である「안an+러leoⅡ」に限って、次の18)と19)のように「～しようとしなくて」の意味に解釈することができる。これは、「러leo」が「안an」を目的節に持つことによって、「-려고leoogo(～しよう)」の意味に移行していると解釈できる。

18) “대통령이 사람을 안만나려고 청남대에 가는 것이지, ~.”

(「大統領は人に会おうとしないで青南台へ行くのだ、～。」)

19) 컴퓨터 수업을 안 받으려고 일부러 공원에 가서 시간을 때웠다.

(パソコンの授業を受けようとしなくてわざわざ公園へ行って時間をつぶした。)

目的を表す表現の否定において、14)と15)は「안an+러leoⅡ」の特徴であり、「-러leo」と「～に」の異なる点である。さらに、14)と15)の否定副詞「안an」と「-러leo」の関係は、形態的には日本語の「～ずに」に似ているが、意味的には異なる。つまり、20)の「～ず」は、形態的な面では「안an」と同じであるが、「～ず」は目的を表さず、機能的には相違性を持っている。

20) 太郎は友だちに会わずにカフェへ行った。

以上、「-러leo」と「～に」の目的節と主節の関わりについて見てみた。「述語の意志性」、「主体の一致」、「場所の一致」という点では共通性を持つが、「否定」、特に「안an+러leoⅡ」においては相違点を持つ。次は、目的節の特徴について考察する。

3. 2. 目的節の特徴

「-러leo」と「～に」の目的節は、「品詞的な面」、「敬語」、「テンス・アスペクト・ムード形式」、「取り立て助詞との共起」、「述語用法」、「移動の様態を表す動詞」という6点にまとめられる。

3. 2. 1. 品詞的な面

目的を表す「～に」には、「ご飯を食べに行く」のような動詞の連用形に付く「～に」と、「食事に行く」のような動名詞に付く「～に」がある。どちらも意志性を持つ述語につき、目的を表す点では似ている。この点について、奥田（1983）では、「移動性の動詞が、に格のかたちをとる動作性の抽象名詞（とくに動詞派生の）とくみあわせると、目的規定的なむすびつきができる」、泉原（2007）では、「動作を表す名詞『食事/相談/運動/手入れ』などは、『～に』をつければ、目的になる」、日本語記述文法研究会（2008）では、「『に』は動詞の語基に接続し、動きを表す名詞に直接つくこともある」、と次のような例を挙げている。

- 21) a. 墓まいりにいった人たちがかえってきた。（奥田1983）
 b. 蔦次が報告にかえってきた。（奥田1983）
 c. これから晩ご飯食べに出掛けますけど、ご一緒しませんか。（泉原2007）
 d. 来週から試験だから、試験準備に、学校の帰り、図書館へ行こうよ。（泉原2007）
 e. 友達を迎えに、駅まで行った。（日本語記述文法研究会2008）
 f. みんなで工場の見学に行った。（日本語記述文法研究会2008）

実際にも、目的を表す「～に」には次のようなヴァリエーションが見られる。

- 22) a. 手紙を事務室外の郵便袋に入れると、ボンはワーナーを探しに行った。（少・死線上の四）
 b. こいつは相談しに来たのではなく、通告に來たのだ。（少・わたしは虚夢を月に聴く）
 c. ～親方が、一人の徒弟をつれてA邸の庭の手入れにやってきた。（少・日本の名随筆）
 d. なるべく早く迎えに行くつもりです。（少・なかよし小鳩組）
 e. 「どこかへ食事に行こう」と彼が言った。（少・上海の紅い死）

22a) の「探す」と22b) の「相談する」は動詞、22c) の「手入れ」は和語動名詞、22d) の「迎え」は動詞連用形から名詞化された動名詞、22e) の「食事」は動名詞（サ変になり得る名詞）である。22) の目的節の「～に」がそれぞれ同一のものかどうかは今の段階では証明できないが、「食事しに行ったらアートに出会えた。（20121030朝日）」と「食事に行ったりドライブに行ったり。（20131105朝日）」の「～しに行く」と「～に行く」が同じ目的を表す点では重なるところがある¹⁵。

一方、韓国語の「-러leo」と比較してみると、「-러leo」は22) のように動詞以外には制約がある。

- 23) a. 내일 우리 집에 식사 {하러/*러} 오세요.
 (明日我が家へ食事 {しに/*に} 来てください。)
 b. 동생 숙제를 도우 {러/*로러} 2층에 갔다.

¹⁵ 『日本文法大辞典』（1991）では、「本を買いに行く」の動作の目的を表す「に」と「列車は東京駅に定時到着」の場所を表す「に」はどちらも格助詞と見ているようである。

((年下の) 兄弟の宿題を手伝い {に/*名詞化標識+に} 2階へ行った。)

さらに、23a) の식사 (食事) のような名詞が、主節に移動動詞を用い、そして目的を表すためには、「식사sigsa+를leul 하러 가다haleo gada」(食事をしに行く)、「식사sigsa+를leul 가다gada」(食事に行く)のように、名詞に、「를leul (を) 하러 가다 haleo gada (しに行く)」か、「를leul (を) 가다gada (行く)」の形をつけないといけない¹⁶。つまり、「-러leo」の目的節述語には動詞以外のものは用いない。この点は日本語の「～に」と大きく異なる。次は、「敬語」について考察する。

3. 2. 2. 敬語

目的を表す「-러leo」と「～に」において、目的節述語には唯一、敬語を用いることができる。「-러leo」構文では、主節の主体が尊敬を表す「-시si-」の挿入を要求する性格である場合は、24) のように「-러leo」の前に「-시si-」が挿入される(尹平鉉2005)。

24) “멀리서 저를 보시러 오시는 만큼 최선을 다해 열심히 하겠습니다.” (20110414朝鮮)

(「遠方から私に会いにお出でになるので最善を尽くし、頑張ります。」)

一方「～に」は、25a) のように尊敬を表す表現と、25b) のように謙譲を表す表現が両方とも用いられる。「～に」には謙譲を表す表現は使えるが、「-러leo」には使えない。従って、「-러leo」と「～に」において、尊敬表現は一致するが、謙譲表現には相違点が見られる。

25) a. お客さんのお泊りになっているところがどこだかわかりませんが、なんとか何もさわりのないうちに宿までお戻りになりたければ、とつととさかさまの塔のなかをごらんになりにいったほうがいいですよ」(少・魔王の国の戦士)

b. 「供の者たちをお返しいただきに、いずれこちらから伺いますと…」(少・砂漠神の都市)
もちろん、韓国語にも謙譲を表す表現、つまり「뵙다 (お目にかかる)」、「드리다 (差し上げる)」などがあり、語彙的には日本語と同じところもあるが、韓国語には謙譲表現の接辞がないところが異なる。次は、「テンス・アスペクト・ムード形式」について考察する。

3. 2. 3. テンス・アスペクト・ムード形式

目的を表す「-러leo」、「～に」の目的節述語には、従来指摘されているように、テンス・アスペクト・ムード形式の制限がある。

26) a. 그는 나를 만나러 {*만났으러/* 만나겠으러/* 만나고 있으러} 왔다.

¹⁶ 野間 (1990) では、「不可算名詞で、「- (를leul/을eul) 하다hada」をつけると動詞になるもののうち、「-를leul/을eul 가다gada/오다oda」(…を行く/来る) がつきうるものを「営為名詞」と名付け、営為名詞はすべて「営為名詞+를leul/을eul 가다gada」(…を行く) と「営為名詞+를leul/을eul 하러 가다haleo gada」(…をしに行く) の形をとるが、営為名詞以外の名詞は「를leul/을eul 하러 가다haleo gada」しかとりえない」と説明している。

(彼は私に会いに { *会ったに / *会うだろうに / *会っていに } 来た。)

b. ワラビ採りに { *採ったに / *採るだろうに / *採っていに } 行った。

しかし、次の27)のように、主節述語の制限はない。

27) a. 그 돈은 교장이 찾으러 갔다. (世宗) (そのお金は校長が下ろしに行った。)

b. 일단 밥 먹으러 잡시다. (世宗) (とりあえずご飯食べに行きましょう。)

c. “태우야, 밥 먹으러 와!” (世宗) (テウ、ご飯食べに来て!)

d. それじゃ、みんなで作業部会の様子を見に行ってみよう! (少・広報くりはし)

e. そして、手紙の最後に「たまにはぼくの家にも遊びに来てください」と書いたのだそう
だ。(少・私の昭和町)

f. チャーリーのところまで話をしに来るだろうか。(少・ライオンボーイ)

以上のように、目的節の「テンス・アスペクト・ムード形式」の制限は両言語において共通する。次は「取りたて助詞との共起」について考察する。

3. 2. 4. 取り立て助詞との共起

目的を表す「-러leo」と「～に」の目的節には、従来指摘されているように、取り立て助詞が後続することができる。28)と29)のように、取りたて助詞との共起においては両言語に共通点がある。

28) a. “양총 구하러는 이천 고을에 갔구, …” (世宗)

(「西洋の銃を探しにはイチョン町へ行って、…」)

b. “～ 같이 영화관도 가고, 뭐 먹으러도 다녔고요.” (20011119朝鮮)

(「～一緒に映画館にも行き、何かを食べるにも通いました。」)

c. 올라는 천안 자기 집에는 가끔 다녀러만 가고 서울 와서 이 집에 묵고 있었다.

(世宗) (ウルラは天安の実家にはたまに泊まりにだけ帰り、ソウルに来てからこの家に泊まっていた。)

29) a. 「小倉の人が八幡に行く用事はあまりない。でも、うまい餃子屋がたくさんあるから、案外みんな食べるには行くよね」。(20100323朝日)

b. 「～半分以上は外食ですし、1週間に1～2回は飲みにも行くし、ラーメンも食べます」

(少・低インシュリンダイエット)

c. 「きつとよ竹兄さま国兄さま、お土産なんていらないから、会いだけはいらしてね」

(少・月宮の人)

次は、「述語用法」について考察する。

3. 2. 5. 述語用法¹⁷

韓国語では、目的節が「-것은goseun-이다ida. (～するのは～だ。)」パターン¹⁷の焦点の場所である「-이다ida. (～だ。)」の前に「-러leo」を用いることができる(洪在星(1987)、許雄(1995))。つまり、30)のように「-었다. (～だった。)」、「-지. (～でしょう。)」、「-야. (～だよ。)」の前に「-러leo」が用いられる。

- 30) a. 영수가 할머니 댁에 간 것은 용돈을 받으러었다.

(ヨンスがおばあさんのお家に行ったのはお小遣いをもらいにだった。)

- b. 너 내일 서울 가는 건 여자친구 만나러지?

(君が明日ソウルに行くのは彼女に会いにでしょう?)

- c. 그 언니가 늘 이시간에 나가는 건 자원봉사하러야.

(あの先輩がいつもこの時間に出て行くのはボランティアしにだよ。)

しかし、31)のように、「-입니다/예요. (です。)」の前に「-러leo」を用いることはできない。

- 31) a. 영수가 할머니 댁에 왜 갔어요? (ヨンスはおばあさんの家になぜ行きましたか。)

용돈을 받으러 {*입니다/*예요}. (お小遣いをもらいにです。)

- b. 내일 서울에 왜 가요? (明日ソウルへなぜ行くんですか。)

여자친구 만나러 {*입니다/*예요}. (彼女に会いにです。)

- c. *그 언니가 늘 이시간에 나가는 건 자원봉사하러입니다.

(あの先輩がいつもこの時間に出掛けるのはボランティアしにです。)

一方、「～に」の場合は、述語用法「～だ。」による述語化は不可能であるとされているが(前田2001)、必ずしもそうではない。実際には32)のように、「～だ。」「～だよ。」「～です。」「～ですね。」などの前に「～に」が用いられる。

- 32) a. 「表通りを渡った先の、永代寺仲見世に相州屋でえ豆腐屋がある。おふみは今朝方、そこに行ったてえんだよ」「そんな…なんでまたそんなとこに」「きちんとあいさつを通しにだ。」(少・あかね空)

- b. 「何で来てるのって? 遊びにだよ」「いやなことあった時来るよね」「教室はうるさくっていや」。(19990310朝日)

- c. 信州を旅行中という大津市の杉山博通さんから「二年後に迫っている定年後の永住の地を探しにです。便利さと快適さ、そして環境のよさ、この三拍子がそろっている場所を探すのは至難の業であることがわかりました」。(20001030朝日)

- d. 「この町にお住まいですか?」

「いや、ワシントンから飛んで来ました」

¹⁷ 前田(2001)。

「わたしに会いにですか?」 (少・時間の砂)

- e. 「～そりゃ冗談ですけど、毎日交替で一、二時間ずつくらいは様子ば見にですね、行きはしとったとですが、頭もどこも、もうよかとですか」 (少・特務自衛隊新世紀ウォー)

「述語用法」があるという点では両言語は共通するが、日本語の「～に+です。」形式は成立する反面、韓国語の「-러leo+입니다/예요. (です。)」形式は成立しない点では、相違点がある。また、「-러leo」と「～に」の「述語用法」は、次の33)、34)のように、倒置や理由を表す言い方と類似点がある。

- 33) a. 이 강좌에 참석한 것은 놀면서 먹을 수 있는 방법을 알고 싶어서입니다.

(この講座に参加したのは、遊びながら食べることができる方法を知りたくてです。)

- b. 그가 이런 것도 가리지 않고 먹는 것은 몹시 배가 고프니까다.

(彼はこのようなものも構わず食べるのは大変お腹が空いているからだ。)

- c. 지난해 13년간의 결혼 생활 파경으로 공백기에 들어갔지만 오뚝이처럼 컴백했다.

그것도 중국어 교재까지 한 권 들고서다. (20130731朝鮮)

(昨年13年間の結婚生活の破局で休みに入ったが、だるまのようにカムバックした。さらに、中国語の教材まで一冊持ってだ。)

- d. 그가 참석하지 못한 것은 제대로 연락이 달지 않아서였습니다.

(彼が出席できなかったのはまともに連絡がつかなかったためでした。)

- 34) a. しかし捜査は、フランコを軸にしたんだ。エゴンとやらがもしも怪しい人間なら、フランコの周辺を洗えば必ず出てくだろうと思ってだ。 (少・ネジ式ザゼツキー)

- b. 裁判官や陪審員が、たとえ虐待があったと信じてても、あなたを虐待した人が有罪にならない場合もあります。十分な証拠がないからです。 (少・犯罪被害者支援)

- c. が、足がガクガクで、奈良田に着いた途端、温泉に入りに行くのも足をひきずりながらでした。 (少・明日のおもいで)

- d. 最悪だ…ここ最近会社で寝泊まりをしてストレスが溜まっていた所でだ。 (20131013google)

しかし、33a)では、「-서seo+입니다/예요. (です。)」が可能である点で、「-러leo+입니다/예요. (です。)」とは異なる。韓国語の「-러leo+입니다/예요. (です。)」形式が成立しないのは、35)のように、体言・副詞・助詞・語尾などにつき、表現を丁寧にする働きをする「-요yo」が、「-입니다/예요. (です。)」の代わりに使われるからであろう。この点は日本語と異なる。

- 35) “누구 만나러 가십니까?” (「誰に会いに行かれますか。」)

“아뇨. 그냥 구경하러요.” (世宗) (「いや、ただ見物しにです。」)

3. 2. 6. 移動の様態を表す動詞

「-러leo」と「～に」の目的節には、移動の意味の動詞類を持たないとしている（尹平鉉（2005）、한송화（2007）、前田（2001）など）。その理由として、尹平鉉氏は「主節移動動詞の『場所移動』の意味と、『-러leo』が持つ『場所移動』の意味が重なるためである」、한송화氏は「移動した場所で『来るか行く』という行為が行われないからである」、前田氏は「目的節は移動以外の動作になる必要がある」としている。つまり、目的節と主節の関係が「移動動詞＋移動動詞」にはならないわけであり、移動動詞と分類されている動詞が目的節に用いられる場合、その動詞は移動性を失す、または移動性が弱くなる、ということである。従って、36) の目的節に「걷다（歩く）」、「뛰다（跳ぶ・走る）」、「달리다（走る）」、「헤엄치다（泳ぐ）」が用いられるのは、これらの動詞が移動性より様態性の強い動詞類であることである。もちろん、洪在星（1987）の移動動詞リストにも挙がっていない。

- 36) a. 지난주 나흘 휴가를 부산에서 보냈다. 주변에서 “나흘이나 뭐 하며 지낼 거냐” 고 의아해했다. “걸으러 간다” 고 대답했다. (20130217朝鮮)

（先週、四日間の休暇を釜山で過ごした。周りからは「四日間も何して過ごすの？」と不思議がられた。「歩きに行く」と答えた。）

- b. 조깅코스에는 폴리우레탄이 깔려 겨울인 요즘도 한밤이나 새벽에 뛰러 나오는 사람들이 많다. (20020129朝鮮) （ジョギングコースにはポリウレタンが敷かれ、冬の頃も真夜中や早朝に走りに出てくる人は多い。）

- c. “지난해에는 춘천대회에 달리러 나간 지 닷새 만에 섬에 돌아올 수 있었다” (20031017朝鮮)

（「昨年は春川大会に走りに出掛け、五日ぶりに島に戻ることができた。」）

- d. 수민이가 헤엄치러 가지 못하게 벌을 준 것입니다. (世宗)

（スミンが泳ぎに行けないように罰を与えています。）

36) の目的節述語と同義の日本語「歩く」、「走る」、「泳ぐ」も37) のように「～に」の目的節に用いられる。これらも様態性の強い動詞類である点で韓国語と共通する。

- 37) a. 「コタツに入ってテレビ」はやめて、さあ今日も歩きに行こう! (20050205朝日)

- b. 「ちょっと走りに行ってくるわ」 (少・盗まれた恋心)

- c. サン・マルスランに池があつて、よく泳ぎにきました。 (少・愛と同じくらい孤独)

一方、38a) の「다니다（通う）」、38b) の「들르다（寄る）」、38c) の「돌다（回る）」、38d) 「넘다（越える）」は、洪在星（1987）の移動動詞リストに挙がっているが、「-러leo」の目的節に用いられる。38a) と38b) の「다니다（通う）」、「들르다（寄る）」は、文脈上、場所移動の意味より「滞在する」、「過ごす」という意味で、39c) の「돌다（回る）」、38d) の「넘다（越える）」は、文脈上「散歩する」、「制覇する」という意味で使われている。これらの動詞

が「-러leo」目的節に用いられるのは、文脈上、移動の意味より様態性が前面に出ているからである。

38) a. 그리고 1990년에 잠시 한국에 다니러 왔다가 교통사고를 당했다. (20061109朝鮮)

(そして1990年にしばらく韓国へ通いに来たとき、交通事故に遭った。)

b. 결혼해 떠난 동생은 두 달 후 잠깐 집에 들르러 온다. (20020518朝鮮)

(結婚して分家した兄弟は二ヶ月後しばらく実家に寄りに来る。)

c. 운동할 겸 공원을 한 바퀴 돌러 나왔다. (運動がてら公園を一周回りに出てきた。)

d. 5명의 태극낭자, 만리장성 넘으러 간다! (20051027朝鮮)

(5人の太極娘、万里の長城を越えに行く!)

38) の目的節述語と同義の日本語をみると、39a) の「回る」は「～に」の目的節に用いられるが、39b) は非文になる。

39) a.今日は気分転換に、東京の美術館を回りに来たのである。(少・殉教カテリナ車輪)

b. *母は皮膚科へ通いに行った。

そして、40) の「渡る」、「入る」の場合は「～に」の目的節に用いられ、文脈上「橋を見る」、「体を洗う」という意味で使われているが、

40) a. 大分県九重町に、昨年10月に開通した「九重“夢”大吊橋」を渡りに出掛けた。

(20070227朝日)

b. 「風呂に入っていると思うよ。君も一緒に入りに行かないか。王将風呂といって、大きな風呂なんだ」(少・みちのく殺意の旅)

40) の目的節述語と同義の韓国語「건너다(渡る)」、「들어가다(入る)」の場合は、41a) は「-러leo」の目的節に用いられるが、41b) は、用いられない。

41) a. 내일은 남해대교를 건너러 갑니다. (明日は南海大橋を渡りに行きます。)

b. *미희는 교실에 들어가러 갔습니다. (ミヒは教室に入りに行きました。)

しかし、42a) の「타다(乗る)」、42b) の「乗る」は、それぞれの目的節に用いられ、「出稼ぎする」、「見る」の意味に使われている。

42) a. 초등학교 때 어머니는 집을 나갔고, 배 타러 간 아버지는 실종됐다. (20120702朝鮮)

(小学校の時に母は家出をし、船に乗りに行った父は行方不明になった。)

b. 「ほう、わざわざ汽車に乗りに来たのですか。…」(少・気まぐれ列車と途中下車)

さらに、「여행하다(旅行する)」は、「-러leo」の目的節に用いられないとしているが(白峰子2010)、43a) のように、「-러leo」の目的節に用いられる。43b) の「旅行する」も「～に」の目的節に用いられる。このように、移動の様態を表す動詞は、両言語において共通する語彙もある。

43) a. 둘은 공무이외에도 같이 밥먹고, 술마시러 갈 때도 같이 다녔으며 여행하러 가서는 경비

를 아끼려고 같은 방에 자는 그런 친구가 됐다. (19940423朝鮮)

(二人は公務以外にも一緒にご飯を食べ、飲みに行く時も一緒に行動し、旅行しに行っては、経費を節約しようと同じ部屋に泊まるそのような友達になった。)

b. この日本人青年、なんでも上海に語学留学しているらしく、学校の休暇を利用してラオスに旅行しに来たということだ。(少・こんな国あってもいい)

以上、「-러leo」、「～に」の目的節につく動詞について考察した。両言語の目的節に用いられる動詞は、移動の様態を表す動詞、それに、移動動詞と分類されていても、文脈上、移動性より様態性が前面に強く出ている動詞である。両言語において、目的節に移動の様態を表す動詞を用いることは共通するが、語彙的には相違があり、同じ意味の動詞でも様態性の強さには強弱の差が見られる。

以上のように、「-러leo」と「～に」の目的節の特徴について分析した。「テンス・アスペクト・ムード形式の制約」、「取り立て助詞の共起」においては両言語に共通するが、「品詞的な面」、「敬語」、「述語化」、「移動の様態を表す動詞」では両言語に相違点が見られた。

3. 3. 主節の特徴

「-러leo」と「～に」の主節述語には、基本的に「移動動詞」を持つが、目的節に疑問詞を持つ「非移動動詞」、さらに目的節で終わる「ゼロ主節形式」がある。これらは、両言語に共通する。

3. 3. 1. 移動動詞

目的を表す「-러leo」と「～に」の主節述語に用いられるのは、従来指摘されているように、移動性を持った「行く」、「来る」を中心とした動詞である。従って、44a)の「나가다(出掛ける)」と44b)の「来る」のように、移動動詞が用いられる場合は適格文になるが、44c)の「아프다(具合が悪い)」と44d)の「運動をする」のように、非移動動詞が用いられる場合は非文になる。

44) a. 방금 마당에 눈을 쓸러 나갔어요. (世宗) (ただいま庭へ雪かきに出掛けました。)

b. まるで小劇団のアングラ演劇を見に来たかのようだ。(少・行きそで行かないとこへ)

c. 아이를 찾으러 {갔다/*아왔다}. (子供を探しに {行った/*具合が悪かった}。)

d. 彼は父に会いに {来た/*運動をした}。

ここでは、「-러leo+移動動詞」、「～に+移動動詞」を満足させる「移動動詞」について考察するが、一言で移動動詞と言っても統語的な面や意味的な観点から、その概念や範囲を決めるのは簡単ではない。そこで、移動の段階によって移動動詞をカテゴリ化した日韓の先行研究の代表的な例、45)と46)を取り上げ、それぞれの移動動詞と「-러leo」、「～に」との共起関係について分

析する。

45) 崔昌烈 (1983)

- ①出発段階: 떠나다 (発つ)・나서다 (出掛ける)・향발하다 (向発する)・출발하다 (出発する) 類
- ②経過段階: 거치다 (経る)・다니다 (通う)・돌다 (回る)・경유하다 (経由する) 類
- ③到着段階: 닿다 (着く)・다다르다 (至る)・이르다 (至る)・도착하다 (到着する) 類
- ④全ての段階: 가다 (行く)・오다 (来る)・돌아가다 (戻る) 類

46) 宮島 (1972)

- ①出発の段階に重点があるもの: 「でかける」「出発する」の類
: 「でかける・(でる)¹⁸・出発する…」
- ②経過の段階に重点があるもの: 「むかう」「とおる」の類
 - a) 方向性のつよいもの: 「めざす・むかう・ちかづく…」
 - b) 方向性のよいもの: 「とおる・わたる・こえる・つたう・よこぎる…」
- ③到着の段階に重点があるもの: 「つく」「とどく」の類
: 「つく・とどく・いたる・達する…」
- ④全部の段階をふくむもの: 「いく」「はいる」の類
: 「いく・くる・のぼる・はいる…」

以上のように、45)と46)では、移動動詞を移動の段階によって四段階にグループ分けしている。以下では、四段階の移動動詞と「-러leo」、「～に」との共起関係を段階別に分析する。

第一に、①「出発段階」の移動動詞である。「出発段階」の移動動詞は全て「-러leo」と「～に」の主節に用いられる。

47) a. 옛날에, 어떤 사람이 뭐 용인지 뭔지 하고 싸우러 배를 타고 떠났는데, ～.

(昔、ある人が龍か何かと戦いに船に乗って発ったが、～。)

b. 북한 기자동맹 대표단이 중국을 방문 중인 김정일 국방위원장을 취재하러 중국으로 출발했다.

(北朝鮮記者同盟代表団は、中国訪問中の金正日国防委員長を取材しに中国へ出発した。)

c. 内容は雄々しく狩りに出発する天皇を称えただけの歌である。(少・白虎と青竜)

d. 皆さんもこの珍しい野鳥を探しに出掛けてみてはいかがでしょうか。(少・市報きよせ)

第二に、②「経過段階」の移動動詞である。「経過段階」の移動動詞は、一部は主節に用いられない。「-러leo」の場合、「다니다 (通う)」、「돌다 (回る)」¹⁹は「-러leo」の主節に用いられ

¹⁸ 宮島 (1972) は、「でる」の基本的な意味である、外への移動のばあいには、「裏門を出る」のように経過点を示す「～を」をとりうるから、④類 (全段階を含むもの) に属する、としている。

¹⁹ 남승호 (2007) は、「돌다 (回る)」は「-러leo」の主節に用いないと指摘している。

るが、「거치다 (経る)」、「경유하다 (経由する)」は用いられない。48c) が非文になるのは、意味的に、実際の場所移動を表さないからである。

48) a. 그때까지 하는 일이 없으니까 아낙네들은 날마다 조개나 캐러 다닌다. (世宗)

(それまですることがないから、女性たちは日々貝ばかり採りに通う。)

b. 나는 변돈 받으러 닷새 도막으루 여러 장터들을 돌구 있네. (世宗)

(私は人に貸したお金を回収しに五日間ごとに複数の市場を回っている。)

c. *물고기를 잡으러 버스터미널을 거쳤다. (魚を獲りにバスターミナルを経た。)

「～に」の場合は、「向かう」、「通る」、「越える」などは、「～に」の主節に用いられるが、「伝う」は用いられない。

49) a. ヌオン・ロタは修介とともにタム・マイを殺しに向かうと言う。(少・週刊文春)

b. 「～、おっかさんはあざみの芽を見に昨日あすこを通ったばかりです。」(少・国語総合)

一方、「経過段階」の移動動詞の中で、46) の宮島 (1972) の移動動詞リストにはあるが、45) の崔昌烈 (1983) の移動動詞リストに挙がっていない「향하다 (向かう)」²⁰、「건너다 (渡る)」は、50) のように「-러leo」との共起が可能である。

50) a. 그러곤 버드나무를 만나러 어릴 적 고향으로 향했습니다. (世宗)

(そうして柳に会いに幼い頃の故郷に向かいました。)

b. 오늘 낮 우리가 점심을 먹으러 건너갔던 바로 그 횡단보도에서～. (20030816朝鮮)

(今日の昼、私たちが昼食を食べに渡った、まさにあの横断歩道で～。)

また、45) の崔昌烈 (1983) の移動動詞リストにはあるが、46) の宮島 (1972) の移動動詞リストに挙がっていない「回る」、「通う」も、51) のように「～に」の主節に用いられる。

51) a. ですから、QCサークルがある程度、普及してくると、それに賛成していた組合のリーダーが抑えに回るという現象を、残念ながら伴っています。(少・新・日本人論)

b. 同商店街は高校時代、お気に入りの洋服や雑貨を探しに通った場所だ。(20090727朝日)

さらに、45) の崔昌烈 (1983) の移動動詞リストにはないが、洪在星 (1987) では移動動詞としている「들르다 (寄る)」も、「-러leo」の主節に用いられる。「寄る」も「～に」の主節に用いられる。

52) a. 남편이 그 동안 고마웠다며 수박을 들고 인사를 하러 들렀습니다. (世宗)

(夫がその中にありがたかったとスイカを持って挨拶をしに立ち寄りました。)

b. ちょいとおっちゃんも飲んでるんでな。様子を見に寄ったまでよ。(少・鈴河岸物語)

第三に、③「到着段階」の移動動詞である。「到着段階」の移動動詞は、一部のみ主節に用いられる。53) のように、「이르다 (至る)」、「着く」は、「-러leo」と「～に」の主節に用いられ

²⁰ 「향하다 (向かう)」は洪在星 (1987) の移動動詞リスト (約280語) にも挙がっていない。

る。

- 53) a. 그리고 20년이 지나서 나는 어쭙잖게도 스님의 다니식을 보러 그곳에 이른 것이었다. (世宗)

(そして20年が過ぎて私は恐縮の至りに、お坊さんのお葬式を見にそこに至ったのだった。)

- b. 日曜日の学会へ参加しに土曜日の夜京都に着いた。

しかし、次の54)のように、「다다르다 (至る)」、「달다 (着く)」と、「至る」、「達する」などは、それぞれ「-러leo」と「～に」の主節に用いられない。

- 54) a. *음식 재료를 사러 마트에 다다랐다. (食材を買いにスーパーへ至った。)

- b. *물고기를 낚으러 강에 달았다. (魚を釣りに川へ着いた。)

- c. *娘の様子を見に幼稚園へ至った。

一方、55)のように、「도착하다 (到着する)」は「-러leo」の主節に用いないが、「到着する」は「～に」の主節に用いられる。

- 55) a. ??한류 스타를 보러 오사카에 도착했다. (韓流スターを見に大阪へ到着した。)

- b. 今夜に高校生が十何人かが参加しに到着するということですが～。 (www.tuins.ac.jp/library/pdf/2009kokusai-PDF/2009-07oyabu.pdf)

第四に、④の「全ての段階」の移動動詞である。「全ての段階」の移動動詞は全て「-러leo」と「～に」の主節に用いられる。この点では「出発段階」の移動動詞と共通する。

- 56) a. 그녀는 남편을 만나러 왔었다. (=1a) (彼女は夫に会いに来ていた。)

- b. 영수는 두고 온 휴대 전화를 가지러 회사로 돌아갔다.

(ヨンスは置き忘れた携帯電話を取りに会社へ戻った。)

- c. 新しいトリートメントを買いに行く. (=1b)

- d. 翌週、ビリーの母親と会いに面会室へ入るとき、～。 (少・ある多重人格者の記録)

- e. 初日の出を見に山を登った。

そして、46)の宮島(1972)の移動動詞リストにはあるが、45)の崔昌烈(1983)の移動動詞リストに挙がっていない「들어가다 (入る)」、「올라가다 (登る)」は、「-러leo」の主節に用いられる。

- 57) a. 그녀는 물이 뚝뚝 떨어지는 맨발로 천막 속에 유리잔을 찾으러 들어갔다. (世宗)

(彼女は水がぼたぼた落ちる素足でテントの中へグラスを探しに入った。)

- b. “할아버지는 매일 약초를 캐러 산에 올라갔습니다…….” (世宗)

(「おじいさんは毎日薬草を採りに山へ登りました……。」)

なお、45)と46)両方の移動動詞リストに挙がっていない「타다 (乗る)」も目的節に用いられる。日本語の「乗る」も同様である。

- 58) a. 살림은 늘어가고, 임신을 하고, 그리고 입덧에 시달리는 임신부를 위해 그는 겨울 포도

를 사러 서울로 가는 기차를 타기도 했다. (世宗)

(暮らしの道具は増えて、妊娠をして、そしてつわりに悩まされている妊婦のために、彼は冬のブドウを買いにソウルに行く列車に乗ったりもした。)

b. 1945年8月12日、張令俊さんが父を捜しに乗った長崎行きの列車は、道ノ尾駅までしか進めなかった。(20121102朝日)

以上、移動の段階による四段階の移動動詞について考察した。一方、以上の四段階の移動動詞とは異なるが、「-러1eo」、「～に」との共起関係を持つ動詞類がある。「걷다(歩く)」、「뛰다(走る)」、そして「歩く」、「走る」などは、移動の様子を表すのみで、移動の事実を表さないことから、59a)のように、主節には用いられないとしている(洪在星1987)。しかし、59a)の異見として、59b)のように移動の到着点を挿入すると可能になるという見解もある(한송화2007)。

59) a. *철수는 영희를 만나러 걷는다. (洪在星1987) (チョルスはヨンヒに会いに歩く。)

b. 철수는 영희를 만나러 정류장까지 뛰었다. (한송화2007)

(チョルスはヨンヒに会いに停留場まで走った。)

確かに60a)の韓国語では移動の到着点が必要である。しかし、60b)と60c)の日本語の場合は、移動の到着点を挿入しなくても成立する。

60) a. 두 귀신이 생선도 사러 가고, 메뚜기를 잡으러 논둑길을 걷고, 제삿날을 맞으면 먹을 갈아 지방도 쓰고 있었다. (世宗)

(二人の幽霊は魚も買いに行ったり、バッタを捕まえに水田の土手道を歩いたり、命日になると墨を摩り位牌も書いていた。)

b. 都内で別々に暮らしていた2世帯4人は一緒に土地探しに歩きましたがこれとは思う物件には出合えないまま。(少・新しい住まいの設計)

c. そのことを稲平はいまだ松坂にある美雪と作次郎らに知らせに走った。(少・熱風!)

以上の移動動詞と「-러1eo」、「～に」との共起関係は、次の3点にまとめることができる。

(1) 「出発段階」と「全ての段階」の移動動詞は、全て「-러1eo」、「～に」の主節に用いられる。この点は、両言語に共通する。一方、「経過段階」と「到着段階」の移動動詞は、両言語ともに、「-러1eo」、「～に」との共起には消極的である。

(2) 「経過段階」の移動動詞では、両言語に語彙的な差が見られる。韓国語の「다니다(通う)・돌다(回る)・들르다(寄る)・향하다(向う)・건너다(渡る)」は「-러1eo」と共起するが、「거치다(経る)・경유하다(経由する)・넘다(越える)」は共起しない。日本語の「向う・近づく・通る・渡る・越える・横切る・回る・通う・寄る」は「～に」と共起するが、「伝う」は共起しない。

(3) 「到着段階」の移動動詞でも、両言語に語彙的な差が見られるが、共起可能なものは少な

い。韓国語の「이르다（致る）」は「-러leo」と共起するが、「닿다（着く）・다다르다（至る）・도착하다（到着する）」は共起しない。日本語の「着く・到着する」は「～に」と共起するが、「届く・至る・達する」は共起しない。

3. 3. 2. 非移動動詞

目的を表す「-러leo」と「～に」の主節には、その目的を成し遂げるための場所移動が前提であるため移動動詞を用いるということは、3.3.1. でみた。しかし、主節には移動動詞を持たない場合がある。そして、主節に移動動詞を持たない場合は、目的性が失われることもありうる。

〈1〉目的性がないもの（慣用句化）

目的性が失われる場合の一つは、「疑問詞＋非移動動詞」になる場合で、さらに、目的節が疑問の焦点となる疑問詞になる場合である。61) と62) の目的節には、「何をする」という疑問文が、主節には非移動性の動詞がつき、主節の動作の「必要性」を表す。つまり、61) の「읽하러 읽나?（何しに読む?）」、「뭐 하러 보냐?（何しに見る?）」、62) の「何しに～喧嘩する」、「何しに～いる!」は、それぞれの動作（읽다（読む）、보다（見る）、喧嘩する、いる）を行う必要・価値などが無いことを表している。この「疑問詞＋非移動動詞」は、目的から派生し、慣用句化しているようである²¹。

61) a. “연극을 보면 되지 희곡을 읽하러 읽나?”（世宗）

（「演劇を見ればいいのに、戯曲を何しに読むの。」）

b. “그런 돌대가리 같은 TV를 뭐 하러 보냐?”（世宗）

（「そんな阿呆のようなTVを何しに見るの。」）

62) a. その近所に庵主寺があつての、ほして、その庵主さま、やって来なすつて、「お前達、何しにそんなおっかねえ喧嘩するんぞや」言いなすつたら、…。（少・北国の雁）

b. 何しにお前がここにいる!（20131013google）

なお、主節に移動動詞を用いる「疑問詞＋移動動詞」は、目的性を維持している場合もあるが、63) のように、「돈도 한푼 없으면서（お金一銭もないのに）」、「一体」などから読み取れる文脈上の意味やイントネーションなどで、反語的な言い回しと判断される場合も多い。

63) a. “돈도 한푼 없으면서 여긴 뭐 하러 왔냐?”（世宗）

（「お金一銭もないのに、ここへ何しに来たの?」）

b. どういうことだ。なんの話だ。おまえたちは、一体なにをしに来たのだ。（少・双頭の鷲）

²¹ 張光軍（1999）では、「-러」は「目的」を表す文型と「理由」を表す慣用形があるとし、理由を表す文型は、先行節に「무엇하다（何する）」など疑問語を含む動詞句のみ使われ、さらに、後行節には移動動詞を用いない、としている。

〈2〉目的性があるもの

さらに、目的性は維持するものの、主節述語に非移動動詞を用いる場合がある²²。ただし、文脈上の意味が「移動の意味を含む動詞」である場合に限られるようである。次の例を見てみると、64)の「만나다(会う)」、「일어나다(起きる)」²³と、65)の「動く」、「(飲み)につきあう」²⁴は、動きを表す動詞であるが、直接、場所移動を表す動詞ではない。しかし、「-러leo」と「～に」に後続できるのは、文脈上、64a)の「是正しに会う」は「是正しに来て話す」の意味に、64b)の「顔を洗いに起きる」は「顔を洗いに洗面台に行く」の意味になり、65a)「奪いに動く」は「奪いに行く」の意味に、65b)「飲みにつきあう」は「飲みと一緒に行く」という意味になるからであろう。

64) a. 그리고 그는 지금 잘못된 것을 시정하러 만나자고 한 것이다. (世宗)

(そして彼は今、間違ったことを是正しに会おうと言ったのだ。)

b. 그제야 손주 녀석이 황칠한 얼굴, 말하자면 땀과 흙먼지로 얼룩진 얼굴을 씻으러 부스스 일어나곤 했음은 말할 나위 없다. (世宗) (やとと孫が黄色になった顔、いわば汗や土ぼこりで汚れた顔を洗いにおもむるに起きたりしたことは言うまでもない。)

65) a. 「作戦いくで」。(中略) 中央の玉よけを奪いに来た相手に、雪玉を浴びせる戦法だ。だが、両チームはにらみ合い、中央を奪いに動かない。作戦失敗。(20130129朝日)

b. タイプの男性は「毎晩、飲みにつきあってくれる人かな」。(20130506朝日)

しかし、「-러leo」の主節に非移動動詞「들다deulda」を用いる場合は、目的性が失われる²⁵。

以上のように、両言語において反語的な言い方は同じ傾向がみられる。一方、目的性があるものの場合、語彙的に差が見られる。

3. 3. 3. ゼロ主節形式

ゼロ主節形式は、目的を表す「-러leo」の会話文、倒置文などにしばしば見られる。

66) a. “나 좀 나갔다올게.” “어디 가는데?” “술 사러.” (世宗)

²² 한송화 (2007) では、主節の動詞は移動動詞である必要があるが、文脈上、主節が移動の意味を含意している場合のみ、主節に移動動詞以外の動詞を用いることができると説明している。

「대공원에 볼품 몇 마리가 새로 들어왔는데 그 포커페이스 구경하러 잠 준 내 할 까 보 다」(大公園のヒグマ数頭が新たに入ってきたが、そのポーカフェイス見物に暇を作らなければならない。)

²³ 洪在星 (1987) では、「일어서다(立ち上がる)」などの姿勢変化を表す動詞も移動動詞としている。

²⁴ 前田 (2001) では、「(飲み)につきあう」を「移動動詞」とみている。

²⁵ 「-러leo」が非移動動詞の「들다deulda」と共起し、目的性を失う場合がある。「거짓말을 할 때는 그것이 거짓이 아니라는 것을 하느님이나 죽은 같은 극단에 보장시키러 들 다는 것은 범죄심리학에서 상식이다. (19990827朝鮮) (嘘をつくときはそれが嘘ではないことを神や死のような極端に保証させようとするということは、犯罪心理学の常識である)」。この例の「들다leo deulda」は、「생각하다・마음을 먹다(考える、思う)」の意味で、「-러 들다leo deulda」は「～しようとする」という「意図」の意味を表す。言い換えると「-러」が「目的」の意味から離れ、「意図」の世界に少し滑り込もうとしているようにも思われる。許 雄 (1995) では、「-러 들다leo deulda」を「-러 들다lyeo deulda (～しようとする)」の変形であるとみている。

（「私、ちょっと出掛けて来る。」「どこに行くの?」「お酒買いに。」）

- b. “애애, 회사에 일을 하러 온다고 생각해봐. 얼마나 고달프니. 차라리 놀러 다닌다고 생각하는 거야. 과자 먹으러. 과자 먹으며 색칠하는 거. ~” (世宗)

（「ねね、会社に仕事に来るって考えてみて。つらいでしょ。むしろ遊びに行くって考えるのよ。お菓子食べに。お菓子食べながら色塗りするの。～」）

日本語の場合も、67) のようにゼロ主節形式が可能であり、韓国語と共通性を持つ。

- 67) a. 海外旅行って、どこに行きたいの? もちろんイラン、ペルシャ絨緞を見に。ねえ、このジュウタンどこの? イタリアコンマよ、ホーホケキョ。(少・東京情事)

- b. 千恵子 あら、さつき来ましたわ、帝一さんを探しに。

楓 えつ、来た? まだ居るの? (少・三島由紀夫全集)

以上、「-러leo」と「～に」の主節の特徴について考察した。「-러 (leo)」、「～に」と共起する「移動動詞」の範囲には差が見られる。また、両言語の主節には「移動動詞」だけではなく「非移動動詞」が用いられ、さらに、「疑問詞」と共起する場合、純粋な目的の意味から離れ、反語的な意味に解釈される。

4. おわりに

以上、本稿では「目的」を表す韓国語の「-러leo」と日本語の「動詞の連用形+に」の文法的な機能を考察し、その違いを明らかにすることを試みた。その結果、韓国語の「-러leo」と日本語の「～に」は大きく共通するところがあることを確認した。特に、主節には移動動詞がつき、目的節には基本的に動詞がつくことである。目的節と主節の全体としては、意志性述語に制限され、そして主体・場所が一致しなければならない。さらに、受身表現や、疑問詞を用いた反語的な表現は、「-러leo」と「～に」の純粋な意味の目的性から離れ、発話者による評価性に少し入り込んでいる表現であることが明らかになった。

一方、「-러leo」と「～に」の相違点については、語彙的な面で大きな違いが見られた。つまり、日本語では存在や感覚・感情を表す動詞は「～に」の目的節に用いられないが、韓国語では「있다 (居る)」、「느끼다 (感じる)」などが「-러leo」の目的節に用いられる。そして、両言語の目的節に移動の様態を表す動詞を用いることは共通するが、語彙的な面で相違が見られ、同じ意味の動詞でも様態性の強さには強弱の差が見られた。また、韓国語の「-러leo」は目的節には動詞のみ用いるが、日本語の「～に」は動詞だけではなく、動作を表す名詞も用いる点、そして、日本語の「～に」の目的節には尊敬・謙譲を表す表現が用いられるが、韓国語の「-러leo」は、謙譲を表す表現がない点で相違性が見られた。さらに、韓国語の「-러leo」には目的を表さない場合があり、それは、否定副詞の「안an」が前後の述語のみを否定する場合であることが確認できた。

今後の課題としては、「-러leo」と「～に」の両者の構造上の特徴を踏まえ、韓国語の「-려고lyeogo」、「-고자goja」などと、日本語の「～ために」、「～ように」など、広義の「目的表現」について対照分析し、さらに、語彙的な面での相違を明らかにしていきたい。

〈参考文献〉

【韓国語】

- 國立國語研究院『韓國語標準文法（試案）』（國立國語研究院、2002）
國立國語院『外國人을 위한 韓國語 文法 1—體系編』（커뮤니케이션북스、2005）
남기심・고영근『標準 國語 文法論—改訂版—』（담출판사、1993）
남승호「韓國語 移動動詞의 論項構造와 事件構造」（이정민 他4人）『意味構造의 表象과 實現』（소화출판사、2007）
——「韓國語 移動 動詞의 意味構造와 論項交替」『語學研究』39-1（서울대학교、2003）
白峰子『外國語로서의 韓國語 文法 事典』（도서출판 하우、2006）
尹平鉉『現代國語 接統語尾 研究』（박이정、2005）
이은경『國語學叢書31 國語의 連結 語尾 研究』（國語學會、2000）
이희자・이종희『韓國語學習專門家用 語尾・助詞事典』（한국문화사、2010）
張光軍『韓國語 連結語尾의 表現論』（도서출판 월인、1999）
전수태『國語 移動動詞의 意味 研究—改訂版』（도서출판 박이정、2009）
채희락「移動動詞의 定義와 分類」『現代文法研究』15（現代文法學會、1999）
崔昌烈『韓國語의 意味構造』（한신문화사、1983）
한송화「‘-으러’와 ‘-으려고’의 研究」『語文論叢』第47号（韓國文學言語學會、2007）
許 雄『20世紀 우리말의 形態論』（샘문화사、1995）
洪在星「‘-러’連結語尾文과 移動動詞」『語學研究』18-2（서울대학교、1982）
——『現代 韓國語 動詞構文의 研究』（담출판사、1987）

【日本語】

- 泉原省二『日本語類義表現使い分け辞典』（研究社、2007）
奥田靖雄「に格の名詞と動詞のくみあわせ」言語学研究会編『日本語文法・連語論』（むぎ書房刊、1983）
影山太郎『文法と語形成』（ひつじ書房、1993）
小泉 保他4人編『日本語基本動詞用法事典』（大修館書店、1989）
佐治圭三「類義表現分析の一方法—目的を表す言い方を例として—」『金田一春彦博士古稀記念論文集 第二卷 言語学編』（三省堂、1984）
寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』（くろしお出版、1982）

日本語記述文法研究会編『現代日本語文法6 第11部 複文』（くろしお出版、2008）

野間秀樹「朝鮮語の名詞分類—語彙論・文法論のために」『朝鮮学報』135（朝鮮学報、1990）

前田直子「スルタメ（二）、スルヨウ（二）、シニ、スルノニー目的を表す表現—」『日本語類義表現の文法（下）複文・連文編』（くろしお出版、2001）

益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法—改訂版—』（くろしお出版、1999）

松本 曜「空間動詞の言語表現とその拡張」田中茂範・松本曜（編）『日英語比較選書6 空間と移動の表現』（研究社出版、1997）

宮島達夫『動詞の意味・用法の記述研究』（国立国語研究所、1972）

———「格支配の量的側面」『語彙論研究』（むぎ書房、1994）

森田良行「動詞の文型と意味について」『動詞の意味論的文法研究』（明治書院、1994）

〈引用データ〉

朝日：朝日新聞データベース『聞蔵Ⅱビジュアル』

少：国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（少納言による利用）

(<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon>)

KCP：韓國科学技術院電算科「KCP (KAIST Concordance Program)」(<http://morph.kaist.ac.kr/kcp>)

世宗：文化観光部「21世紀 世宗計画」(<http://www.sejong.or.kr>)

朝鮮：朝鮮ドットコム!一等インターネットニュース (<http://db.chosun.com/DBmain.html>)